福島市立清明小学校　　学校だより　令和２年１１月６日　第３１号　　〈文責〉校長

みんなとともに笑顔いっぱい　ー「１０１」新たなるステージへ ー

みんなとともに

11月２日（月）の「フリー参観」は、例年以上にたくさんのお家の方にお出でいただきました。学校教育への関心の高さ、お子さんへの愛情の深さを感じました。４日（水）には、５年生の音楽発表と６年生の劇の発表を下級生も見せてもらいました。私も見ていて、一人一人の一生懸命さが伝わってきて感動を覚えました。素直に前向きに取り組む本校の子どもたちは、私の“自慢”です。

「校長のつぶやき」２話

「校長のつぶやき」を２つお届けします。折角なので、“視察での気づき”をお伝えしたいと考えました。

【校長のつぶやき】　その４９　「震災から まもなく１０年」

先週、県小学校長会の仕事で、県内外の先生方と「原発視察」に行ってきた。ここ３年間、毎年足を運んでいる。今回は、加えて「相双地区の校長との懇談」や「伝承館の見学」もあった。実際に行ってみると、「復興への道半ば」であることを実感する。多くの方の感想は「百聞は一見にしかず」であったが、私もこの目で見てきたことを書き記したいと考えた。

◇ 原発周囲の環境は、「変わったところ」と「変わらないところ」がある。

私の記憶では、初めてのときは、外を歩いている作業員は防護服を着ていたように思う。今回は、マスクはしていたが、服装は通常の作業服であった。原発の敷地内はバスによる移動なのだが、今回初めて１～４号機を望む高台でバスを降りた。記念写真を撮ったが、放射線量はどうだったのだろうか。

原発に向かう途中では、中間貯蔵施設の整備が進んでいた。高速道路や周辺道路にはダンプが目立つ。本校の汚染土もここに運ばれてきたのだろう。

富岡駅や双葉駅も整備され、全線開通した常磐線を電車が走っていた。反面、双葉町内の国道６号は、道路の両側が封鎖され、立ち入ることは未だできない。桜で有名な夜ノ森公園も、近づくことはできない状態であった。

◇ 「伝承館」が新たにでき、「語り部の話」や「フィールドワーク」も行われている。

震災を風化させないための施設として「伝承館」ができていた。映像資料も豊富で、あらためて「複合災害」に見まわれた本県の実情を確認した。実体験に基づく語り部の話や、フィールドワークとして実際に現地を見ながらの話は、より実感を伴って震災を感じることができた。特に、「請戸小の奇跡」と言われる津波から児童の命を守り切った教師たちの行動は、同じ教育者として大変勉強になった。

◇ 避難を強いられた地域の「学校」は、以前厳しい状況にある。

避難指示が解除されても、住民は戻るか戻らないかの選択を迫られている。学校は児童生徒数が激減したため、小学校と中学校を合わせた形の義務教育学校にする動きが見られている。飯舘村では、今年度から義務教育学校「いいたて希望の里学園」が開校している。

※ 再開した「Ｊヴィレッジ」は新たに宿泊棟が建てられていた。青々とした天然芝が印象的だった。

【校長のつぶやき】　その５０　「＋α（プラス アルファ）の言葉」

最近は、朝、校庭南側のイチョウの木の下の掃除をしている。昨年の「学校だより」にも書いたが、イチョウの実（銀杏）が落ち、子どもの通学を邪魔しているからだ。さて、掃除をしながら、子どもたちに「おはよう」と声をかけているのだが、「おはようございます」の声とともに、「お掃除をしていただいて、ありがとうございます」と「＋αの言葉」を加えて応えてくれる子がいる。大変うれしい気持ちになり、ほうきを動かす私の動きも軽やかになる。

掃除を終え、昇降口に来ると、検温担当の教師、養護教諭、協力員などが、勤務時間の前にも関わらず、子どもたちを迎えてくれている。そして、教務主任の早川教諭である。早川教諭は、４月から毎朝、昇降口にいて、子どもたちに声をかけている。「おはようございます。〇〇さん、きょうはいつもより早くていいね。」とか「〇〇さん、きのう休んだけれど大丈夫かな。元気になってよかったね。」とか、挨拶だけではなく「＋αの言葉」を子どもたちにかけている。おそらく、その言葉から“安心感”や“エネルギー”をもらっている子もいることだろう。

何気ない朝の風景から、「＋αの言葉」の大切さを学んでいる今日この頃である。